

BANレスキューの“心得”

ここ10年間のBAN救助データによると、トラブルの原因として“機関故障”がほとんどを占めています。直近の1年間でも同じ結果です。

その次に推進機障害、蓄電池過放電、燃料欠乏……と続きます。これらの原因は、出航前の点検をていねいに行っていれば、かなり多くの事例で救助は必要なかったのではないかとBANは考えます。

そのほかにも、事前に目的地までのルートや地形、気象、海象を

把握するなど、基本的な準備をしていれば事故にいたらなかった事例が少なくありません。無用な事故を避けるために、会員の皆様にはぜひとも事前の「点検」「準備」を心がけていただけますよう、お願いいたします。

しかし、とは言っても“万が一の場合”は突然やってきます。そんな時には、焦らず落ち着いてBANに連絡してください。

ここでは、BANに救助を要請した時の対応や、注意事項をまとめました。「いざという時」に備えるのも、大切な準備の一環です。

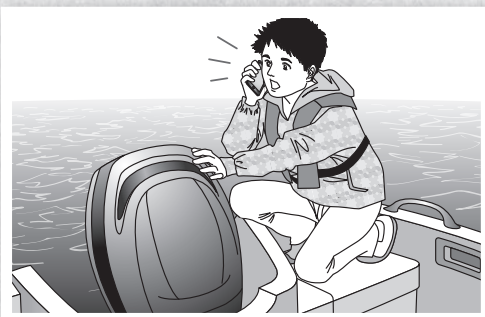
事故発生からレスキューを待つまでにすべきこと

1 通信機器は命綱

事故発生に気がつき、対処できないと判断したら、BANの緊急連絡番号**0120-479-499**か、またはBANコールで救助を要請。同乗者にも救助対応の協力を頼む。

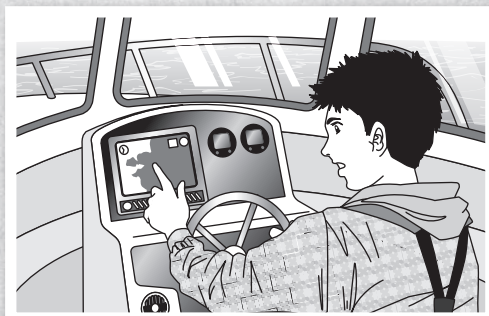
そのためには、携帯電話・スマートフォンなどの通信機器が万全の状態であることが重要。

充電や防水処置には日頃から十分気をつけ、まさかの時に取り落とさないよう、乗船時専用ネックストラップなどを用意しておくのも手だ。



2 現在地の把握

船に積載しているGPS、魚探、スマートフォンなどで、自艇の現在地(緯度経度)を把握し、BANのオペレーターに連絡。



3 待機中の座礁に注意

岸が近く、水深が浅い場所で救助を待つ間、風や潮に流されて座礁してしまわないよう、アンカーを打っておく。アンカーロープの端をクリートに結んでおくことを忘れる人も多いので、注意。

風向き/水深/底質などを確認して、すみやかにアンカーを打てるよう、日頃から投錨の練習も必要。すぐに取り出せるよう、乗員全員で保管場所も確認しておきたい。



4 待機中の安全を確保

レスキューを待つ間の乗員の安全を再確認する。全員のライフジャケット着用をもういちど確認し、見張りを行うとともに周囲に他の船舶がいる場合は、航行不能になっていることを知らせ、注意を喚起する。



5 曳航ロープの受け渡しは慎重に

海が荒れている時など、曳航ロープを受け渡す際に転んでケガをしたり落水する危険が大。あらかじめデッキ上を整理整頓しておくことも忘れない。

ロープは十分な強度を持ったクリートに結んでおくこと。

